

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)	◎	一般小売店〔酒〕（店長）	・ゴールデンウィークやイベントも増えるため、景気は良くなる。
	◎	百貨店（店舗企画）	・インバウンドが徐々に売上のベースを底上げしてきている。
	◎	コンビニ（店長）	・今のところマイナス要因がないなか、いまだ来客数は新型コロナウイルス感染症発生以前に届いておらず、伸び代が残っていると判断している。
	◎	コンビニ（代表者）	・観光客数は今後も増えていく。加えて、今月より一層県民の人流は増加しており、新型コロナウイルス感染症発生前の生活が取り戻されている。
	◎	コンビニ（副店長）	・4月はクルーズ船の寄港が減るが、5月以降の寄港予定船が増える。また、国際線の便数も増える見込みで期待する。
	○	スーパー（企画担当）	・日常生活が新型コロナウイルス感染症発生前の状態に戻りつつある。また、再開されたクルーズ船の来港が5月から平常運航となる。これから夏場に向けてクルーズ船の来港が増加するなど、基幹産業の観光業が活発化することで、人の流れも活発化し来客数の増加が見込まれる。
	○	コンビニ（経営者）	・ファーストフードの売上が伸びているため、量を増やして売上増加に期待したい。
	○	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスも過去のものになりそうであり、景気も上がってくるのではないかとみられる。
	○	その他専門店〔陶器〕（製造）	・取引先から海外からの旅行者が増えている旨聞いているため、上向きなのではないかとみられる。
	○	一般レストラン（代表者）	・今の流れで良くなれば、と期待する。ただし、何が起こるか分からず、心配でもある。
	○	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・特に観光客の増加が店舗の入客状況、街頭を歩いていても見受けられる。新型コロナウイルス感染症発生前のように、外国語が頻繁に聞こえるようになってきている。ただし、求人難でスタッフが足りず、入店規制をしながら営業しているため、利益は上がりにくい。
	○	その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・先行きの受注状況は2019年並みに回復している。全国旅行支援の継続もあり、今後の受注増加が期待できる。
	□	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症対策の自粛解除等があり、客の動きも少し活発になっている印象がある。少しだが、売上がアップしているところも出てきているようである。長い間悪かったので安ど感があるが、もう少し市場をみていった方が良いかと考える。
	□	家電量販店（営業担当）	・外国人観光客の増加で免税需要のある店舗の売上は若干伸びているが、全体の来客数減少をカバーできない。
	□	乗用車販売店（営業担当）	・3月決算に向けて春先需要で新車販売台数は伸びていくが、半導体不足での納期遅延が客にも浸透しており春先需要が前倒しになったと考えられる。
	□	通信会社（営業担当）	・特に良くなる要因がなく、このまま物価高による買い控えが続くとみられる。
	□	住宅販売会社（役員）	・現在より状況が悪くなるとはいえないが、物価高や金利の先高感もあり現状維持ではないかとみている。
	▲	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況がもう少し落ち着いて良くなれば、将来的には少しだけは良くなる可能性はある。
	▲	乗用車販売店（経理担当）	・商品供給量が絞られている。
	▲	観光型ホテル（代表取締役）	・全国旅行支援の継続が決定したが、詳細が出ていないことで宿泊部門は予約は期待するほど動いていない。料飲部門は徐々に予約が増えている。これから春、夏を迎えることでエアコンの利用が増えて電気使用料金が上がる。補えるだけの売上が増えるとは考えづらい。
▲	観光型ホテル（企画担当）	・ホテルの3月の販売室数が前年比194%増加なのに対して、3月末時点での6月の予約室数は前年比173%増加と、プラス幅が小さくなっている。	
▲	旅行代理店（マネージャー）	・新型コロナウイルス感染症とは関係なく人も動き始めているが、今度は財布のひもが固くなってしまっている。	
▲	住宅販売会社（代表取締役）	・来月以降も建築資材などの高騰が続くことで建築コストが高止まりし、更に住宅等の購入が難しくなりそうである。	
	×	－	－
企業	◎	－	－

動向 関連 (沖縄)	○	食料品製造業（役員）	・これからゴールデンウィークそして夏のトップシーズンに向け、これまで以上に観光客の増加が見込まれ、比例して土産、ホテル飲食店関連の売上の増加が期待できる。
	○	建設業（経営者）	・高額受注の相談が、具体的に動き出している。
	○	輸送業（経営企画室）	・クルーズ船の受入れも増加し、物流倉庫もしゅん工を控えているため、今後も物流関係は好調である。
	□	窯業土石業（取締役）	・原材料の価格高騰に伴い一定程度の価格転嫁はできたが、人件費等の製造経費が上乗せできる環境ではなく収益は引き続き厳しい状況である。
	□	輸送業（代表者）	・先島地区の建設関連は、公共工事においては石垣島の陸上自衛隊関連工事は終了したが、与那国島の自衛隊関連工事が始まっていて、また港湾関係も始めている。民需についても、大型ホテル工事が、宮古島石垣島を中心に進んでいる。
	□	広告代理店（営業担当）	・県内企業の販促投資は、先行きの景気に対する不安から伸び悩んでいる。
	□	会計事務所（所長）	・県内景気は回復基調であるが、為替、エネルギーコストの家計への影響が本格的に顕在化してくる。
	▲	—	—
	×	—	—
雇用 関連 (沖縄)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（経営者）	・しばらくは経済回復基調は変わらず、関連した業務や年度末年度初めの業務関連派遣も増えるとみている。一方、人材不足は続いており、収益増加は薄い。
	○	人材派遣会社（総務担当）	・観光客の増加で人の動きが活発になり、経済が活性化するとみられる。
	○	職業安定所（職員）	・求人数の充足からみて、観光関連業種の回復に伴い、人の取り合いになるため、賃金等条件を改善できるかなどで、明暗が分かれてくるのではないかと予測する。
	□	求人情報誌製作会社（営業担当）	・観光客も増えてきていて、観光関連が活発になってくる。
	□	求人情報誌製作会社（営業）	・今月を求人動向のピークとして3か月先は落ち着くかとみていたが、人流の活性化や国内外からの観光客増加の現状からすると、採用が落ち着き求人が減少する企業と、まだ人手が必要な企業の求人プラスマイナスゼロくらいかと予測している。
	□	学校〔専門学校〕（就職担当）	・IT系を中心に多くの求人が2月から4月に届き、それ以降は求人件数としては減少してくる。ただし、例年と同様の動きであるため、現状としては変わらないと予想している。
	□	学校〔大学〕（就職支援担当）	・燃料費の高騰に続いて様々な物価高騰も重なっている。
	▲	—	—
×	—	—	